

# トイレ掃除は運気を上げるか

—『ホステス心得帖』（北新地社交料飲協会）の紹介—

やなぎさわかつひろ  
柳沢克央（上田仮説サークル）

「トイレ掃除をすると運気が上がる」という話があることはずっと前から気になっていた。

最近、なんとなく「やってみよう」と思い、やってみたら色々な事がわかった（…ような気がする）。私の結論は「効果があるだろうと思ってやると効果がある。効果がないかもしれないと思ってやってもやはり効果がある」である。重要なのはとにかく「やってみる」こと。つまりは「すべては気の持ちよう」ということだと思う。

＊

禅問答をするつもりはないので、次に詳しく説明する。

- ① 自分から進んでトイレ掃除をしようと思う人の精神状態は良い状態であることが多い。こういう状態の人が何かに目的意識的に取り組んでいると、注意力が十分に働くので、結果としてうまくいくことが多く、うまくいっていない場合でもそれを成功に至るための試練だとプラスに受け止めることができ、結果としてうまくいっているように感じられる。最低でも便器は輝くほどに仕上がり、このことによる満足感が得られる。
- ② 他人から促されて、いやいやトイレ掃除に取り組もうとし、「やっぱり、やめておこう」と思って、トイレ掃除をしない場合はどうか。こういう状態にある人は、精神的に充実しているとは言えない場合が多く、こういう人が何かに目的意識的に取り組んでも、注意力が散漫になりがちになる。結果としてうまくいかないことが多い。でもそれは、その人にとってみれば、自分の精神状態の結果として自分に起きていることとは受け止められないので、なんとなく、運が良いとは言えない状態として本人には感じられる。現象として掃除されていない状態が残る。
- ③ いやいやであっても、自発的にトイレ掃除をする場合はどうか。こういう人は、精神状態が悪いというほどでもないから、トイレ掃除をすることにより、精神状態を向上させることが可能である。うまくいけば、トイレ掃除をすることにより、①と同様の結果が得られる。掃除の仕上がりは精神状態に比例することがなんとなくわかっているから、その気になれば満足できる仕上がりになる。

以上が「トイレ掃除をすることにより、運気が上がる」という話に対する今の私の考え（仮説）である。トイレ掃除はやらなくても良いが、やった方がマシなのだ。

＊

それなら、学校清掃ではどうだろうか。私の体験では次のようなことがあった。

- ④ まず、精神状態が充実しているとは言えなかったときのこと。特に目的意識は持たずに当番の生徒たちに清掃させていた。率先垂範してみせるのは実験してみても効果がないことがわかっていたので、「清掃時間に清掃するのは生徒であって、教師は監督・指示をしていればそれでよい」と思っていた。なんとなく、思いつ

きで生徒に指示を出した。生徒たちは「先生は何で掃除しないんですか」などと文句を言いながら、いやいや掃除をしていた。私は「なんと自覚に欠ける生徒たちなのだろう。まあ、やってくれるだけ、マシなんだろうなあ…」などと思いながら漫然と日課にある終了時刻が来るのを待っていた。終了時刻前に生徒たちは何も言わずにどこかにスウ〜ッと消えていった。

- ⑤ 先日、自分から進んでトイレ掃除をするレベルの精神状態にあるとき、次のような現象が起こった（正確には「起こした」という方がいいかもしれない）。まず、反故紙を使ったA4のメモ用紙を紙ばさみに挟んだ。そして、その清掃時間にやるべきことをメモ用紙に私が好きな万年筆でリストアップしていた（どういうわけか、私は万年筆が好きである）。このとき、清掃当番生徒の名簿はなかったのので、生徒たちに名前を訊いて、素早く覚えた。そして、早く来た順で生徒たちにリストを見せて仕事を選んでもらった。次に、生徒の目を見て、生徒の名前を呼んで、選んでくれた仕事をしてくれるようお願いをした。これにより、従来の方法に比べて生徒のモチベーションはおそらく大きく向上したと思う。私としては生徒一人が一つの仕事をやってくれればOKだと思っていたのだが、この日は頼んでもいないのに生徒たちが「次はこれをやります」と自ら進んで二つ目、多い生徒は三つ目の作業に取り組んでくれた。思わず私も手伝った。しかも、「もういいよ。頼むからもう終わりにしてくれ」とこちらが言いたくなくなってしまうほど熱心に、しかも、お互いに協力して、とても丁寧にやってくれたのだ。私は「ああ、なんと素晴らしい生徒たちだろう。ありがたいことだなあ…」とってしまうのであった。清掃が終わった後、私は生徒たちに心からのお礼を言った。「〇〇君、どうもありがとう」と。生徒たちもうれしそうだった。最後にすべての仕事がピンクの蛍光ペンで消されたメモ用紙が残った。今でもこのメモ用紙がもったいなくて捨てられない。

\*

「たかが清掃、されど清掃」である。でも、私は「トイレには神様がいる」と信じるほど純情可憐ではなくなってしまう。ただ、「トイレに神様がいる」のと同じ結果が出たように感じられることはある、ということはここに記しておきたい。神様はいると思う人にとってはいるのだし、いないと思う人にとってはいない。私自身は神様とは一線を画したい。要するに、トイレ掃除に限らず、すべては「気の持ちよう」である。「運氣」とは文字通り「気持ちの運び方」だったのだ。

— \* — \* — \* —

追記：この文章を書くきっかけになったのは『ホステス心得帖』（北新地社交料飲協会）という小冊子です。とても薄い冊子で、無料ダウンロードで手に入ります。上田仮説サークル例会で渡辺規夫さんから教えてもらいました。

この冊子の「ホステスはお客さんの名前を一度で覚えること」という趣旨の記述はとても示唆に富んでいます。これを学校で具現化するとどうなるかという目的意識を持って取り組んだ結果の中間報告です。ここに記して渡辺規夫さんをはじめとする上田仮説サークルのメンバーに、また、篠ノ井高校の生徒たちに感謝します。この冊子には他にも学校で応用できる「価値ある記述」が満載、一読をお奨めします。（『ホステス心得帖』 <http://www.kita-shinchi.org/new/hostess.html>）

（2017年3月12日・よく晴れた日曜午前十一時茶の間パソコン瞬時完成・狂歌）（終）